



しめ飾りの後日談、その2です。

雷は神なり？



以前の写真は、左右が逆だったようです(;;)

話題のしめ飾りは、「コボウ締め」とか「ゴボウ飾り」などと呼ばれます。

本紙を見てくれているAさんからの受け売りですが、ある大学教授の説による



と、太いワラの部分は、空の雲を表しているのだとか。そして、垂らしてあるワラは雨、ぎざぎざした御幣紙はイナズマだそうです。

なるほどお！ そういえば、雷の多い年は豊作になるといわれます。

日照り時に、雷とともに降ってくる夕立が恵みの水となるからだろうという説を聞いたことがあります。さらに、雷の放電が空中チツソを電離させて、雨に溶け

込ませ、作物に供給してくれるからだという仮説を教えてくれたのは、事務局の大野さんだったっけか。

もしかすると「雷」は「神也」あるいは「神鳴り」なのかなあなんてとこまで発想したのでは飛躍かな。



農業を守る。たとえば用水路

右の写真は、とある用水路の小堀です。写真で向こう側のほう、生い茂った雑草が流れの障害となって、手前の土手から水があふれてしまっています。

いわゆる減反田に隣接した用水路などで、ときどき見られる光景です。作付けしていても仕事が追いつかずに、こんな状態になってしまうこともあります。(反省(;;))

効率経営とやらで自分だけ生き残ろうとする抜け駆けは無理で、やはり地域として農業をまもっていく工夫が求められることを教えてくれる光景です。

ちなみに今、なにかというと行政は「担い手農家への農地の集約」というお題目を唱えます。ほんの少数に担い手をしぼれたら万々歳。そのとき、アゼや道路脇の草刈りなどはどうするか

なんて、きっと考えちゃいないんだろうなあ。

がんばるアイガモ

きのう、アイガモを放している田んぼ沿いの道ばた。通りがかった大きな赤い車が停車したと思ったら、いつまでも走り去らずにいます。車内から、みんなでアイガモをながめていたようです。

たとえば写真のような姿。工作中だって、つい立ち止まってしまうよね。



せ〜!



よいしょ



ポチャン

